

教科・科目	芸術・音楽Ⅱ	単位数	2(前期1+後期1)		
		ライン	4	開講時期	前期と後期

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わり、音楽の多様性について理解することができる。
使用教科書・副教材等	高校生の音楽2(教育芸術社) 音楽の鑑賞資料と基礎学習(教育芸術社)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 音楽への関心・意欲・態度	音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を持ち、音楽の学習に意欲的に取り組もうとしている。	レポート	25%
b. 音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して、創意工夫した音楽表現をしている。	レポート 試験	20%
c. 音楽表現の技能	曲想を楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって表現するための技能を身に付けている。	レポート 試験	25%
d. 鑑賞の能力	多様な音楽を鑑賞し、それぞれの特徴を感じ取り、その良さや美しさを味わって批評している。	レポート 試験	30%

3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① 音楽の要素と構成	音楽を形づくっている要素と、曲の構成や形式を知り、楽曲への理解と関心を深めることができる。			○	
	② 楽典(音楽の基礎知識)③「音程」「音階」	音楽Ⅰで学んだ内容を復習した上で「音程」「音階」について理解しようとする。	○			
	③ 思いを込めて歌おう	楽譜から、歌詞に込められた思いや作曲者の意図を読み取って歌おうとする。	○			
	④	この回は実施されません				
	⑤ ソナタ形式の楽曲を聴こう	ソナタ形式を理解し、それに従ってメロディや曲の感じが変わっていくことを感じながら鑑賞することができる。				○
	⑥ 音楽による人物描写～4つのアリアの聴き比べ	それぞれの登場人物の特徴や心情を理解して鑑賞することができる。				○
	⑦ 様々な外国の歌曲を歌おう	様々な外国の歌曲のメロディと歌詞(発音、対訳)を理解し、曲に込められた思いを感じ取りながら、歌うことができる。		○		
後期	⑧ ポピュラー音楽の魅力	ジャズやロックのリズムなどの特徴を理解して鑑賞することができる。				○
	⑨ オーケストラの魅力②	オーケストラの楽器や編成について、しくみや特徴を理解しようとする。	○			
	⑩ 日本の伝統音楽② 世界の諸民族の音楽②	それぞれの芸能の特徴と共通点・相違点を理解して鑑賞することができる。				○
	⑪	この回は実施されません				
	⑫ BGMをつくらう	BGMをつける対象や場面を選択し、それらに合った音素材や音の動きを創作することができる。			○	
	⑬ 楽典(音楽の基礎知識)④「和音」「コードネーム」	「和音」「コードネーム」について理解し、簡単なメロディに和音やコードを付けることができる。			○	
	⑭ ギターを弾こう②	G・Em・C・D7の4つのコードで、『Stand By Me』の演奏を練習することができる。		○		

4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前期の1～3回、後期の1～3回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生	登録					
スクーリング回数	学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① 音楽の要素と構成	前1	1	2	4/23	-	4/25	4/20	
	3		4						
	② 楽典(音楽の基礎知識)③ 「音程」「音階」				5/14	-	5/16	5/11	
	③ 思いを込めて歌おう	前2	1	2	5/28	-	5/30	5/25	
			3	4					
	④	この回は実施されません							
	⑤ ソナタ形式の楽曲を聴こう	前2				6/25	-	6/27	6/22
	⑥ 音楽による人物描写 ～4つのアリアの聴き比べ	前3	1	2	7/9	-	7/11	7/6	
			3	4					
⑦ 様々な外国の歌曲を歌おう					7/23	-	7/25	7/20	
試験	レポート前1～前3の内容		本試験	追再試	8/20	-	8/22	8/17	
後期	⑧ ポピュラー音楽の魅力	後1	1	2	10/8	-	10/10	10/5	
			3	4					
	⑨ オーケストラの魅力②				10/22	-	10/24	10/19	
	⑩ 日本の伝統音楽② 世界の諸民族の音楽②	後2	1	2	11/5	-	11/7	11/9	
			3	4					
	⑪	この回は実施されません							
	⑫ BGMをつくろう	後2				12/3	-	12/5	11/30
	⑬ 楽典(音楽の基礎知識)④ 「和音」「コードネーム」	後3	1	2	12/17	-	12/19	12/14	
	3		4						
⑭ ギターを弾こう②					1/7	-	1/9	1/4	
試験	レポート後1～後3の内容		本試験	追再試	1/21	-	1/23	1/18	

【先生からのメッセージ】

音楽Ⅰを修得した生徒が履修することができます。音楽Ⅰの内容を発展させた学習になります。レポートは教科書や補助プリントをよく見て記入しましょう。また、鑑賞した作品について自分の考えたことや気づきを記述します。自分の考えが伝わるように丁寧に書くことを心がけてください。

授業では歌やキーボード、ギター等の実技も行います。できるだけすべてのスクーリングに出席しましょう。

教科・科目	芸術・美術Ⅱ	単位数	2(前期1+後期1)		
		ライン	4	開講時期	前期と後期

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情をもつとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めることができる。
使用教科書・副教材等	高校生の美術2(日本文教出版) WATCH2(秀学社)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心をもち、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	レポート	25%
b. 発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	レポート 試験	25%
c. 創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題にあった表現方法を工夫し、創造的に表している。	レポート 試験	25%
d. 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わっている。	レポート 試験	25%

3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① オリエンテーション 鑑賞/表現とは何か	多様な表現方法や美術文化に関心をもち、そのよさや美しさを創造的に味わうことができる。				○
	② 絵画/線と明暗で表す	表したいイメージを、線や明暗の描き方を工夫して表現することができる。			○	
	③ 絵画/感覚の冒険①	抽象表現の多様性を理解し、対象の単純化や線や色面による画面構成などを工夫しようとする。	○			
	④	この回は実施されません				
	⑤ 絵画/感覚の冒険②	日常の情景から、自分が感じ取ったイメージを色と形で表す表現方法を考えることができる。		○		
	⑥ デザイン/ポスターを考える①	目的や条件をもとに、テーマが豊かに伝わるポスターを考えることができる。		○		
	⑦ デザイン/ポスターを考える②	考えた構想を基にポスター制作をすることができる。			○	
後期	⑧ 絵画/鉛筆によるトリックアートの世界①	立体的に見える効果を学習し、「錯覚の世界」について理解することができる。				○
	⑨ 絵画/鉛筆によるトリックアートの世界②	紙から飛び出て見える工夫を理解し、表したいイメージを立体的に見えるように表現することができる。			○	
	⑩ デザイン/デザインがもたらす統一感①	組織やイベントのイメージを効果的に伝えるための形や色の工夫や、統一感のあるデザインに興味をもとうとする。	○			
	⑪	この回は実施されません				
	⑫ デザイン/デザインがもたらす統一感②	組織やイベントなどのイメージを伝えるために、配色や図柄などを工夫して統一感のあるデザインを考えることができる。		○		
	⑬ 鑑賞/琳派	琳派の絵画表現の特徴について考え、美術文化の継承と創造について理解することができる。				○
	⑭ 映像メディア表現/複数の写真で表す	複数の写真の組み合わせを鑑賞し、時間の経過や情景の変化に興味をもとうとする。	○			

4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前3回、後1回～後3回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録				
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① オリエンテーション／鑑賞／表現とは何か	前1	1	2	4/23	-	4/25	4/20	
	3		4						
	② 絵画／線と明暗で表す				5/14	-	5/16	5/11	
	③ 絵画／感覚の冒険①	前2	1	2	5/28	-	5/30	5/25	
			3	4					
	④	この回は実施されません							
	⑤ 絵画／感覚の冒険②	前2				6/25	-	6/27	6/22
	⑥ デザイン／ポスターを考える①	前3	1	2	7/9	-	7/11	7/6	
			3	4					
⑦ デザイン／ポスターを考える②					7/23	-	7/25	7/20	
試験	レポート前1～前3の内容 実技試験		本試験	追再試	8/20	-	8/22	8/17	
後期	⑧ 絵画／鉛筆によるトリックアートの世界①	後1	1	2	10/8	-	10/10	10/5	
			3	4					
	⑨ 絵画／鉛筆によるトリックアートの世界②				10/22	-	10/24	10/19	
	⑩ デザイン／デザインがもたらす統一感①	後2	1	2	11/5	-	11/7	11/9	
			3	4					
	⑪	この回は実施されません							
	⑫ デザイン／デザインがもたらす統一感②	後2				12/3	-	12/5	11/30
	⑬ 鑑賞／琳派	後3	1	2	12/17	-	12/19	12/14	
	3		4						
⑭ 映像メディア表現／複数の写真で表す					1/7	-	1/9	1/4	
試験	レポート後1～後3の内容 実技試験		本試験	追再試	1/21	-	1/23	1/18	

【先生からのメッセージ】

美術Ⅱは、制作や鑑賞を通じて表現の幅を広げ、創作の喜びを感じ、自ら生み出した形や色の美を発見する科目です。美術やデザインの役割、歴史の知識を広げ、表現を楽しみましょう。レポート及びスクーリングでは美術の基礎知識についての学習や作品制作を中心にを行います。制作では自分の考えや思いが伝わるような表現を心がけてください。できるだけすべてのスクーリングに出席しましょう。

教科・科目	芸術・書道Ⅱ	単位数	2(前期1+後期1)		
		ライン	4	開講時期	前期と後期

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深めることができる。
使用教科書・副教材等	書道Ⅱ(東京書籍)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	レポート	30%
b. 発想や構想の能力	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	提出作品 レポート 試験	20%
c. 創造的な技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付けて表している。	提出作品 試験	30%
d. 鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	レポート 試験	20%

3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① 漢字の書 篆書の学習 篆書とは	篆書が成立する過程や篆書の特徴について理解しようとする。	○			
	② 漢字の書 篆書の学習 臨書・鑑賞 石鼓文	「石鼓文」の臨書や鑑賞を通して、篆書の用筆、運筆、字形の取り方を理解し、表現できる。			○	
	③ 漢字の書 隷書の学習 隷書の特徴	隷書が成立する過程や隷書の特徴について理解しようとする。	○			
	④	この回は実施されません				
	⑤ 漢字の書 隷書の学習 臨書・鑑賞 張遷碑	「張遷碑」の臨書や鑑賞を通して、隷書の用筆、運筆、字形の取り方を理解し、表現できる。			○	
	⑥ 漢字の書 草書の学習 草書の特徴	草書が成立する過程や草書の特徴について理解しようとする。	○			
	⑦ 漢字の書 草書の学習 臨書・鑑賞 書譜	「書譜」の臨書や鑑賞を通して、草書の用筆、運筆、字形の取り方を理解し、表現できる。			○	
後期	⑧ 仮名の書 仮名の成立・筆使い	仮名の成立過程や特徴を理解しようとする。	○			
	⑨ 仮名の書 平仮名の単体・連綿	平仮名・連綿の学習を通して、仮名の流麗美を理解し、表現できる。			○	
	⑩ 漢字仮名交じりの書 漢字と仮名の調和	行書と仮名の連綿を調和させた表現・構成を考えることができる。		○		
	⑪	この回は実施されません				
	⑫ 漢字仮名交じりの書 作品制作	行書と仮名を調和させた作品を制作し、他者の作品を鑑賞することで美しさを味わうことができる。				○
	⑬ 漢字の書(創作) 書体・構成・用具用材の工夫	これまでに学習した各書体の特徴を活かして自分の意図にあう表現を工夫することができる。		○		
	⑭ 漢字の書(創作) 落款の配置	漢字の書の創作で、自己の思いを表現し、他者の作品の意図を理解し、美しさを味わうことができる。				○

4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前3回、後1回～後3回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録				
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① 漢字の書 篆書の学習 篆書とは	前1	1	2	4/23	-	4/25	4/20	
	3		4						
	② 漢字の書 篆書の学習 臨書・鑑賞 石鼓文				5/14	-	5/16	5/11	
	③ 漢字の書 隷書の学習 隷書の特徴	前2	1	2	5/28	-	5/30	5/25	
	④		この回は実施されません						
	⑤ 漢字の書 隷書の学習 臨書・鑑賞 張遷碑	前2				6/25	-	6/27	6/22
	⑥ 漢字の書 草書の学習 草書の特徴	前3	1	2	7/9	-	7/11	7/6	
	⑦ 漢字の書 草書の学習 臨書・鑑賞 書譜		3	4					
試験	レポート前1～前3の内容 実技試験		本試験	追再試	8/20	-	8/22	8/17	
後期	⑧ 仮名の書 仮名の成立・筆使い	後1	1	2	10/8	-	10/10	10/5	
	⑨ 仮名の書 平仮名の単体・連綿		3	4					
	⑩ 漢字仮名交じりの書 漢字と仮名の調和	後2	1	2	11/5	-	11/7	11/9	
	⑪		この回は実施されません						
	⑫ 漢字仮名交じりの書 作品制作	後2				12/3	-	12/5	11/30
	⑬ 漢字の書(創作) 書体・構成・用具用材の工夫	後3	1	2	12/17	-	12/19	12/14	
	⑭ 漢字の書(創作) 落款の配置		3	4					
試験	レポート後1～後3の内容 実技試験		本試験	追再試	1/21	-	1/23	1/18	

【先生からのメッセージ】

書道Ⅱでは、篆書や隷書、草書など古い時代の書の学習を行います。書道Ⅰでの学習を基に、さらに表現と鑑賞の力を高めていきましょう。実技課題があるので、できるだけ毎回のスクーリングに出席し、作品等の提出をしてください。